



〒663-8558 西宮市池開町 6-46
武庫川女子大学言語文化研究所
Tel 0798(45)3536 (直通)

1997年の漢字

——新聞社会面からみた世相を表す漢字——

ここ数年、日本漢字能力検定協会が、その年の世相を表す漢字を、一般の人々から公募しています。そして、昨年末にも、1997年の結果を発表しました。それによりますと、1位は「倒」で、2位「破」、3位「金」が続き、金融破綻とつながりの強い漢字が選ばれていました。

これらは、一般の人々の意識に基づいた結果として選ばれたものです。そこで、私どもでは、意識の観点とは別に、もう少し客観的な観点から一年を表す漢字が探せないかと考えてみました。そこで、世相を写す鏡とも言われる新聞を取り上げて、紙面に多く使われた漢字を調べることにしました。朝日、毎日、読売の新聞3紙の社会面に1年間に出現した漢字の調査をしたのです。その結果について報告します。

◆調査の方法

朝日、毎日、読売の新聞3紙（各社大阪本社発行）の社会面について、1997年1月～12月の休刊日を除くすべての日の朝刊から、各日5文を無作為抽出した。そのデータを、機械可読のテキストデータとして入力した。そして、プログラム処理によって、使われている漢字を調べた。

データは、322日分で4,830の文である。そこに含まれる漢字は、

延べ：153,396字

異なり：2,112字

であった。

◆最も多かった漢字は？

個々の漢字について、出現度数の多いものから順に並べたものが表1である。カッコ内の数値は出現率を表し、単位はパーミル（千分率）である。

表1. 度数順漢字表

順位	漢字	度数(パーミル)	順位	漢字	度数(パーミル)	順位	漢字	度数(パーミル)
1	日	2,124 (13.8)	18	社	927 (6.0)	35	九	647 (4.2)
2	十	1,691 (11.0)	19	五	899 (5.9)	35	地	647 (4.2)
3	人	1,681 (11.0)	20	月	896 (5.8)	37	円	644 (4.2)
4	一	1,656 (10.8)	21	本	867 (5.7)	38	業	631 (4.1)
5	大	1,444 (9.4)	22	中	847 (5.5)	39	内	615 (4.0)
6	者	1,408 (9.2)	23	阪	820 (5.3)	40	件	608 (4.0)
7	二	1,399 (9.1)	24	四	809 (5.3)	41	見	594 (3.9)
8	市	1,391 (9.1)	25	行	781 (5.1)	42	捜	589 (3.8)
9	事	1,388 (9.0)	26	県	775 (5.1)	43	前	582 (3.8)
10	年	1,313 (8.6)	27	員	743 (4.8)	44	上	577 (3.8)
11	同	1,236 (8.1)	28	時	735 (4.8)	45	府	572 (3.7)
12	会	1,187 (7.7)	29	出	733 (4.8)	46	調	562 (3.7)
13	疑	1,155 (7.5)	30	後	717 (4.7)	47	取	551 (3.6)
14	三	1,046 (6.8)	30	分	717 (4.7)	48	生	545 (3.6)
15	長	1,017 (6.6)	32	査	702 (4.6)	49	入	543 (3.5)
16	部	987 (6.4)	33	金	693 (4.5)	50	発	542 (3.5)
17	容	959 (6.3)	34	約	665 (4.3)	50	万	542 (3.5)

表1では、紙面の都合で50位まで掲げた。最も多かったのは「日」で、それに「十・人・一・大」と続く。これらは、新聞の漢字調査で常に上位を占める漢字である。漢数字で7位に「二」、14位に「三」があるが、これは、1位「日」、2位「十」、4位「一」とともに、日時が重要な情報の要素である新聞では当然の結果である。

新聞の漢字調査で常に上位を占める漢字に交じって、やや違和感のある漢字が見られる。13位の「疑」である。これは「疑う」と使われることが多いのではなく、6位の「者」、17位の「容」とともに「容疑者」として使われることが多く、そのために上位にランクインしたものである。調査対象が新聞の社会面であることによるものであり、同時に、社会面が犯罪事件を多く報道している事実を示すものでもある。

また、表1に、「阪」「県」「府」があって「都」がないのは、大阪本社発行の新聞であって、社会面が一面などとは違って、比較的ローカル色が強いために生じた現象であろう。

なお、一般の人々の公募で世相を表す漢字に選ばれた「倒」は、度数42で687位であった。また、「倒」に続く「破」は、度数63で522位、「金」は、表1にもあるように、度数693で33位であった。

◆1997年にちなむ漢字

ところで、「日」が多かったといっても、前述のように、新聞ならば常によく使われる漢字であって、1997年の新聞に特徴的な漢字というわけではない。そこで、1997年にちなむ漢字を取り出すことを考えてみる。

そのために、「出現度数が多かった漢字」で、「いつでも上位を占める漢字の常連でない漢字」を求めることにする。まず、

- (1) 1月～12月の各月において、上位100位までに含まれる漢字を求める。
- (2) それらの漢字それぞれについて、次のA、B、Cの値を求める。
 - A 上位100位までに含まれたのは何か月か？
 - B 上位100位までに含まれた月における総出現度数は？
 - C 上位100位までに含まれた月における比率の平均は？

結果をCの値の大きい順に並べると、次の表2のようになる。表2で、「出現月」「度数」「月平均比率」が、それぞれ上記のA、B、Cに当たる。

表2. 月別ランク100位以内の漢字の集計表

順位	漢字	出現月	度数	月平均比率	順位	漢字	出現月	度数	月平均比率	順位	漢字	出現月	度数	月平均比率
1	日	12	2,124	13.9	16	部	12	987	6.5	31	少	1	61	4.8
2	十	12	1,691	11.0	17	容	12	959	6.3	32	後	12	717	4.7
3	人	12	1,681	11.0	18	社	12	927	6.1	32	分	12	717	4.7
4	一	12	1,656	10.8	19	五	12	899	5.8	34	査	12	702	4.6
5	大	12	1,444	9.4	20	月	12	896	5.8	35	金	12	693	4.5
6	者	12	1,408	9.2	21	本	12	867	5.7	36	約	12	665	4.3
7	二	12	1,399	9.1	22	中	12	847	5.5	37	業	11	602	4.3
8	事	12	1,388	9.1	23	阪	12	820	5.3	38	九	12	647	4.2
9	市	12	1,391	9.0	24	四	12	809	5.3	39	地	12	647	4.2
10	年	12	1,313	8.6	25	油	1	66	5.2	40	円	12	644	4.2
11	同	12	1,236	8.0	26	行	12	781	5.1	41	件	11	582	4.2
12	会	12	1,187	7.8	27	県	12	775	5.1	42	内	12	615	4.0
13	疑	12	1,155	7.5	28	員	12	743	4.9	43	捜	11	564	4.0
14	三	12	1,046	6.8	29	時	12	735	4.8	44	見	12	594	3.9
15	長	12	1,017	6.6	30	出	12	733	4.8	45	組	6	293	3.9

表2は、表1とほとんど変わらない。そして、上位の漢字は、やはり12か月にわたって出現している。ところが、25位の「油」は、100位位内に含まれていたのは1か月だけである。これは、「油」が、ある1か月に集中的に使われたことを意味する。その1か月とは、実は1月で、重油流出事故や石油卸商がかかわる事件が起こった月である。これらの事故や事件の報道で、「油」が多く使われたのである。

また、31位の「少」は、7月の1か月だけ100位以内に含まれたものである。これは、神戸の児童連続殺傷事件で逮捕された容疑者が少年であったので、紙面に「少年」

という表現で書かれることが多かったり、「少年法」改正をめぐる話題が報道されたりしたことで、7月に出現頻度が高くなったのである。

◆紙面をにぎわした漢字

このように、12か月を通してではなく、短期間に出現頻度が高いものを求めると、その当時の報道内容、つまりは、いわゆる「世間をさわがせた事故や事件」と結びつきの強い漢字が得られる。そこで、表2の基になったデータについて、

(3) 「出現月」が4以下のものだけを、上位から抜き出す。
それが、表3である。

表3. 月別ランク100位以内が4回以下の漢字

順位	漢字	出現月	度数	月平均比率	順位	漢字	出現月	度数	月平均比率	順位	漢字	出現月	度数	月平均比率
1	油	1	66	5.2	11	船	1	41	3.2	21	収	2	80	3.0
2	少	1	61	4.8	11	力	1	41	3.2	22	口	3	112	3.0
3	海	1	50	3.9	13	代	3	129	3.2	23	神	4	148	3.0
4	殺	2	91	3.8	14	病	4	160	3.2	24	券	2	73	3.0
5	総	1	47	3.6	15	公	2	78	3.2	25	供	2	72	3.0
6	重	1	46	3.6	16	医	1	40	3.1	25	資	3	108	3.0
7	車	4	186	3.6	17	回	2	77	3.1	27	犯	1	35	3.0
8	億	1	43	3.4	18	都	2	76	3.1	28	故	1	37	2.9
9	税	2	90	3.3	19	君	1	37	3.1	29	村	2	75	2.9
10	凜	1	39	3.3	20	側	1	38	3.0	30	戸	2	70	2.9

1位「油」、2位「少」は先に説明した。3位の「海」は、1月の日本海で重油が流失した事故のために多くなっている。4位の「殺」は、殺人事件や子供の自殺が相次いだ5月と、神戸の児童連続殺傷事件のあとの7月に多かった。5位の「総」は、総会屋に対する利益供与事件が発覚した9月で、「総会屋」「総務」「株主総会」などの語が使われたために「総」の頻度が高かった。6位の「重」も「重油」で1月。

結局、新聞の社会面では、1月の重油流失の事故にかかわる漢字が多かった。一般の人々が選んだ金融破綻に関連する漢字は、社会面の調査ではほとんど浮かんでこなかった。社会面は日常のさまざまな出来事を具体的に伝えるものであり、人々は、そうした出来事を抽象化してイメージをとらえようとするからであろう。

あとがき ----- 1998. Feb. -----

今回は、これまでとは少し趣向を変えて、現実の言語資料をデータとした報告です。このデータについては年報でくわしく報告するつもりですので、ご批判やご教示あるいはご感想をお寄せいただければ幸いです。(担当: 佐竹秀雄・上月千秋)

[作業協力者] 今井博子・岡本典子・重田久美子・内藤裕美・中尾美也・長岡阿紀・中野佳代子・西野まゆみ・堀畑あかり